

## 2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	環境バリアフリー・ユニバーサルデザイン小委員会	主 査 名：安部信行 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：持田灯 主 査 名：中島裕輔
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境工学分野のバリアフリー・ユニバーサルデザインを専門としている研究者が集まり、情報を共有し、今後の日本や国内外の環境に関するバリアフリー・ユニバーサル環境をよりよいものにしていくために研究活動や新たな研究課題の抽出と重要性について検討していくことを目的とする。</li> <li>・ 先進的な環境工学的なバリアフリーを施した施設や住宅など、公開の見学会を企画して、環境バリアフリーの設計事例の収集に努めるとともに、QOLや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握する。</li> <li>・ 今後の研究活動についての目標設定を明確にししながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行う。</li> </ul>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 安部信行 (八戸工業大学)、柴田祥江 (京都府立大学)、岩田三千子 (摂南大学)、土田義郎 (金沢工業大学)、二井るり子 (有限会社プラットワーク)、堀越哲美 (愛知産業大学)、宮本雅子 (滋賀県立大学)、田中直人 (島根大学)、伊藤大輔 (日本工業大学)、岡田仁 (株式会社ベネッセスタイルケア)、西尾幸一郎 (山口大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2019 年度予算	181,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	無し
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パブリックコメント等	無し

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境工学分野のバリアフリー・ユニバーサルデザインを専門としている研究者が集まり、情報を共有し、今後の日本や国内外の環境に関するバリアフリー・ユニバーサル環境をよりよいものにしていくために研究活動や新たな研究課題の抽出と重要性について検討することができた。</li> <li>2. 先進的な環境工学的なバリアフリーを施した施設の見学会を企画して、環境バリアフリーの設計事例の収集に努めるとともに、QOLや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握することができた。</li> <li>3. 今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行うことができた。</li> </ol>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>なし</p>

## 2019 年度 小委員会活動 自己評価

### (中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	(B)	C	D
<p style="text-align: center;"><b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b></p>	<p>本小委員会は、設計事例の収集に努めるとともに、QOLや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握することを目標として活動を進めてきた。2019 年度は、当初計画よりも少ない、3 回の小委員会を開催して活発な情報交換を行った。</p> <p>建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザインについての研究者とも連携し、情報交換を行い、今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行うことが目的の一つであったが、委員会で情報を共有し研究活動を進めてきた。</p> <p>2019 年度大会では、オーガナイズドセッションにて、建築計画の研究者と連携した環境バリアフリーのセッションを設けた。環境バリアフリー・ユニバーサルデザインの内容に関する発表が多々あり、学生の発表も多く、活発な議論を交わすことのできたセッションとなった。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。